

若者とのガヤガヤ会議における主な意見の県政への反映状況 【新規20事業】

| 主な意見の概要 | 2019年度当初予算への反映状況 | |
|---|--|--|
| | 事業の概要 | 事業名(予算額) |
| I 「清流の国ぎふ」を支える人づくり | | |
| 未来を支える人 | | |
| ・子どもの頃から居住地だけでなく岐阜県全体の良さを 知る機会を増やし、岐阜県への愛着心を育てることが重要。 | ・県内高校において、地域課題の実践研究等を実施し、ふるさと岐阜への愛着や地域社会人としての自覚を持つ人材を育成する。 | 地域共創フラッグシップハイスクール事業費 (11,000千円) 地域課題探究型学習推進事業費 (13,000千円) |
| ・中高生に対して県内企業の魅力をアピールするなど、県外への人口流出を減らす対策が必要。 | ・専門高校において、産学官連携による地域資源を生かした実践研究や地元企業の仕事や魅力を伝えるインターンシップを実施し、地域産業を担う人材を育成する。 | 地域産業の担い手育成総合戦略事業費 (19,400千円) |
| ・障がいの種別に関わらず、どの小学校でも受け入れる体制を整備してほしい。 | ・発達障がいのある児童生徒を指導する教員を養成するため、ベテラン教員による段階的な教員養成プログラムを実施する。 | 発達障がい支援担当教員養成事業費 (1,600千円) |
| 誰もが活躍できる社会 | | |
| ・LGBT対策が進んでいない。差別・偏見がなく、多様な観光客が滞在しやすいまちづくりの推進が必要。 | ・性的指向・性自認の多様性の理解促進に向けた県民向け啓発セミナーや市町村職員を対象とする研修会を開催する。 | 性的指向・性自認理解促進事業費 (3,200千円) |
| ・飲食店、宿泊施設、娯楽施設、公共交通機関等において、障がい者が外出しやすい環境を整備してほしい。 | ・障がい者等用駐車場の利用要件を設定し利用証を交付する「パーキング・パーミット制度」を導入し、普及啓発を図る。 | パーキング・パーミット制度導入事業費 (28,400千円) |
| ・外国人児童生徒のスキルアップとして日本語能力試験(JLPT)を推進してほしい。 | ・日本語能力試験(JLPT)受験に要する費用の一部補助など、市町村が多文化共生社会の推進を目的に行う外国人を支援するソフト事業に対し助成する。 | 多文化共生推進補助金 (7,500千円) |
| II 健やかで安らかな地域づくり | | |
| 健やかに暮らせる地域 | | |
| ・保育士の数が不足している。給与・勤務体制など保育士の処遇改善が必要。 | ・保育士・保育所支援センターに人材登録した保育士に対し、希望条件に合った求人情報を発信するなど、求人・求職マッチングを促進するポータルサイトを構築する。(処遇改善については、別途継続事業で対応。) | 保育士・保育所支援センターポータルサイト構築事業費 (7,732千円) |
| ・飲食店の分煙が徹底されていない。罰則を設けるなど、確実な分煙となるよう指導してほしい。 | ・県民や施設、事業所への周知啓発、相談窓口の設置、たばこ対策推進会議の開催など総合的な受動喫煙防止対策を実施する。 | たばこ対策による健康づくり事業費 (12,700千円) |
| 安らかに暮らせる地域 | | |
| ・県警が配信する「安全・安心メール」の内容が受け取れる防犯アプリを作成し、小学校の授業等で活用してはどうか。 | ・「安全・安心メール」と連携し、犯罪や事故、防犯に関する情報を効果的に入手できるスマートフォンアプリを開発する。(アプリ開発後に、小学校の授業等で活用を検討。) | 防犯スマートフォンアプリケーション整備費 (15,950千円) |
| ・県総合防災ポータルサイトを災害時に使いやすいホームページに改善してほしい。 | ・掲載情報の項目を整理し、構成やデザインを見直すとともに、多言語化やスマートフォンへの対応のほか、SNS連携の機能を付加するなど、利用環境の改善を行う。 | 防災情報アクセス改善事業費 (6,700千円) |
| 誰もが暮らしやすい地域 | | |
| ・移住者を増やすためには仕事が必要。移住を細分化し、岐阜県で仕事をつくるような取組みを進めるべき。 | ・商工会等と連携した継業の掘り起しや移住者とのマッチング支援を行うほか、商工会等を対象とした移住者向け継業支援体制の構築に関する研修会を開催する。 | 清流の国ぎふ移住者継業等支援事業費 (1,000千円) |
| ・Uターンして自分の職能を生かせる職場があるか不安。然るべき職場がない場合、起業等に対するサポートが必要。 | ・東京圏から移住し、中小企業等に就業又は地域課題解決型の事業を起業する際に要する経費を支援するほか、東京圏の移住希望者に県内企業の求人情報を発信する。 | 東京圏からの移住支援事業費 (9,000千円) 東京圏からの移住支援事業費補助金 (75,000千円) 地域課題解決型創業支援事業費 (25,400千円) |
| III 地域にあふれる魅力と活力づくり | | |
| 次世代を見据えた産業の振興 | | |
| ・ITスクールを作り、人材育成を強化することで、IT産業の基幹産業化を推進してはどうか。 | ・情報科学芸術大学院大学(IAMAS)において、高校生等を対象にIoTやAIを活用した作品制作のワークショップを開催する「岐阜クリエイション工房」を新たに実施する。 | 岐阜クリエイション工房事業費 (8,000千円) |
| ・市街地の空き店舗等を有効活用し、まちを活気づかせるため、優遇制度により大企業のサテライトオフィス等を誘致してはどうか。 | ・大都市圏で開催される企業展に出展し、本社機能移転先としての岐阜県の優位性、特に東濃クロスエリアをPRする。 | 本社機能移転PR活動事業費 (1,100千円) |
| ・岐阜県にゆかりのあるアニメやドラマを活用して岐阜県を広くPRしてほしい。 | ・岐阜県ゆかりの戦国武将明智光秀が主人公の2020年の大河ドラマ「麒麟がくる」を活用し、ゆかりの資源を有する市町や観光関連団体と連携して、放送を契機とした地域の魅力発信や受入環境整備に取り組む。(既存のアニメ・ドラマの活用については、別途継続事業で対応。) | 大河ドラマ「麒麟がくる」活用推進事業費 (17,000千円) 大河ドラマ「麒麟がくる」活用推進事業費補助金 (120,000千円) |
| 農林畜水産業の活性化 | | |
| ・森林文化アカデミーの講座等を活用して、パーマカルチャー指導者を養成し、パーマカルチャーの考え方を広く県民に広めてほしい。 | ・「ぎふ木育」推進のため、新たに森林文化アカデミー内に整備する「森林総合教育センター(仮称)」において、パーマカルチャーの理念を学ぶ一般県民向け森林教育プログラムを実施する。 | 森林総合教育センター(仮称)プログラム実施費 (27,000千円の内数) |